

令和 8 年 8 月 3 日
玉野市教育委員会

令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果について

1 調査の実施

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査日

令和 8 年 4 月 23 日（木）

(3) 本市の参加状況（国語実施人数）

<全国：小学校 922, 411 人 中学校 841, 873 人>

参加学校数	参加人数
小学校 13 校	小学校 6 年生 342 人
中学校 7 校	中学校 3 年生 304 人

2 本市の学力状況 国語・算数・数学の数値は平均正答率(%) 中学校英語は IRT スコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語（3 技能）
玉野市	60	52	65	55	475～484
岡山県	62	55	65	57	495～504
全国	60.9	56.4	63.9	57.0	499

○中学校国語では、本市の平均が全国平均を上回った。そのほかの教科は全国平均を下回ったものの、令和 7 年度調査との比較では、令和 7・8 年度に実施したすべての学年・教科で、全国平均との差（マイナス幅）が縮小した。

○小学校 6 年生の同一集団の推移（対全国平均）では、前年度（令和 7 年度・小 5 時）と比べ、国語・算数ともに改善傾向となった。

○中学校 3 年生の同一集団の推移（対全国平均）では、前年度（令和 7 年度・中 2 時）と比べ、国語・数学ともに改善傾向となった。

3 主な結果内容（学力調査結果の分析）

- 各校によって、状況は様々ではあるが、市内の大まかな傾向としては、次のとおり。

【△調査の目標値に対して正答率が高い項目 ▼目標値に対して正答率が低い項目】

小学校6年生	
国語	算数
△資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問	△単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる設問
▼引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問	▼体積の意味について理解しているかどうかをみる設問
▼目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問	▼基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる設問

中学校3年生		
国語	数学	英語（3技能）
△必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる設問	△起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる設問	△日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる設問
△段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる設問	△箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる設問	▼音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる設問
△文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる設問	▼2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる設問	
▼表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる設問	▼筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる設問	

4 主な結果（学習状況調査結果の分析）

【学校は楽しいか】

学校に行くのは楽しいと思う。（最上位層「当てはまる」）

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	84.7%	83.6%
全国	85.7%	85.4%

- 「学校は楽しいか」の設問については、全国平均とほぼ同様の結果となっている。

【キャリア教育】

将来の夢や目標を持っている。(上位2層「もっている・どちらかと言えばもっている」)

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	84.4%	71.4%
全国	81.8%	67.6%

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

(上位2層「してみたい・どちらかと言えばしてみたい」)

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	86.2%	76.2%
全国	80.1%	72.3%

- ・本市の進めるキャリア教育においては、小・中学校ともに全国平均を上回る肯定的回答が多い状況となっている。「玉野の魅力再発見・発信事業」による各校と地域の連携や、各校のキャリア教育の成果と考えられる。

【授業改善】

授業でPC・タブレットなどの機器をどの程度使用しましたか。(ほぼ毎日)

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	54.1%	92.3%
全国	43.0%	55.1%

授業は自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた。

(上位2層「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」)

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	82.1%	82.3%
全国	80.8%	78.9%

- ・学習におけるICT活用は、全国平均を大きく上回り、非常に活用が進んでいる。また、「授業は自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていたか」の設問に対して、肯定的回答が全国平均を上回っている。市全体で進めている校内研修を中心とした授業改善の取り組みが定着してきていることによるものとする。

【家庭学習】

家庭学習60分以上

	小学校6年生	中学校3年生
玉野市	58.9%	48.2%
全国	49.9%	61.6%

- ・家庭学習時間は、小学校では平均以上となっているが、中学校では平均を下回っている。

5 全国調査および県調査を受けての対応

学力状況調査の結果から、昨年度より取り組んできた学校の「授業改善を中心とした学力向上の対策」に一定の改善傾向が見られた。この成果を確実なものとするため、引き続き学力下位層の児童生徒への支援の充実を図りつつ、学力上位層の児童生徒の力も伸ばすといった、「個別最適な学びの提供」を継続・深化させていくことが重要と考える。

そのために、教育委員会では、市全体の課題を分析し、学力向上の方針を作成したうえで、教職員の研修の充実を図るとともに、各校において、自校の課題を分析し、校内研修を核とした授業改善サイクルの構築による授業改善を、各校で確実に実施・定着させていく。

(1) 学力向上対策の基本方針

- ① 今後めざす授業：「全ての児童生徒が力をつける個別最適な学びを実現」
- ② 3つの柱：「児童生徒の実態把握」「家庭学習の充実」「授業作り」
⇒ 3つの柱の一体的な推進による授業改善を引き続きめざす。

(2) 3つの柱の考え方・具体的な取組

<児童生徒の状況把握>

児童生徒の学習状況を、毎時間の授業の後半や、内容のまとまりごとなど、できるだけ短いサイクルで確認し、指導内容や指導方法の修正に生かすことができるよう、「指導と評価の一体化」を引き続き強力に進めていく。

教育 DX を進め、学習 e ポータル（まなびポケット）や校務支援ソフト（C4th）のダッシュボードの情報や、各種調査結果、全国学力・学習状況調査や学校のテスト結果等を効果的に活用し、児童生徒の多面的な理解を行った上での授業改善を継続して進めていく。

<家庭学習の充実>

就学援助率の高さ、家庭での本所有率の低さなど、子どもたちの家庭での学習状況を支えていく支援も引き続き必要と考える。

一人一台端末の持ち帰りを推奨し、家庭でも本市で導入している AI 型デジタル学習ドリルの有効活用が図られるよう、取り組みの定着を図っていく。

学校の授業と家庭学習との接続を意識し、新たな家庭学習のあり方について、学校と協議しながら研究をさらに進めていく。

<授業作り（各教科での育てたい力を明確にし、確実に力をつける授業の実施）>

様々な形態の授業が行われる中で、従来の形にこだわらず、児童生徒一人一人に対応した個別最適な学びを提供していく必要があり、個々の学びの状況を正しく把握し、それぞれの状況に応じた課題の設定や、学びの場・方法の選択、指導支援の提供といった、教師の専門的な見取りや環境構成が重要であると考えます。

児童生徒が主体的に学ぶために、十分に時間確保された中で、各教科の見方・考え方を働かせて考える活動を保証することが大切である。各校の校内研修をさらに充実させ、よりよい授業が行われるように継続して支援を行っていく。